



第5回地域・まちづくり委員会を開催しました！

2025年1月16日（木）に講師に豊中市社会福祉協議会事務局長勝部麗子さんをお迎えし、「地域共生社会の実現に向けて～豊中のCSW・生活支援コーディネーター・重層的支援体制整備の取り組み～」と題して公開学習会を開催しました。

学習テーマに興味のある各会員生協役職員にも参加を呼びかけ、後日配信も含めて31名の当日参加と申し込みがありました。



勝部麗子さん

【内容】 「定年後の男性が、継続して来たいと思う居場所とはどのような居場所なのか」。豊中市社会福祉協議会では平成28年から本格的に男性の居場所づくりの取り組みを始めました。社会参加と言っても女性に比べて男性はこれまでの生活からなかなか参加するハードルが高く、また既存の取り組みにはすでに女性が中心で居心地が悪いなど、結局引きこもってしまいます。そこで男性が運営、参加する共同農園「豊中めぐり」を開設しました。土地の開墾、作物の植え付け、収穫、その収穫物の使い方などを協力しながらおこなっています。そこにはかつての社会的地位は役に立たず、お互いのスキルを持ち寄り協働しながらの作業になります。

このような取り組みのきっかけは、30年前の阪神淡路大震災からおこなっている孤独死対策です。つながりのある町は、孤独などの社会課題が早期発見できるがそうでないまちは、それができなかったことから見守りの強化をしてきました。6年前の大阪北部地震では、4時間で1万2千人の見守りができました。このような街づくりを進めてきた中で一番難しかったのが定年後の男性でした。しかしこの「豊中めぐり」の取り組みは、収穫祭の開催や、子ども食堂への野菜の提供、収穫体験などを通じて男性が社会とつながり、さらに大阪北部地震の時には、高齢者宅等での荷物の片づけなどのボランティアなどもおこなうようになりました。この「豊中めぐり」をやることで、男性たちは認知症や引きこもりの方、外国人など社会問題を抱えている方多様な人々とも自然につながります。するとともにとポテンシャルの高い方々の集まりなので、自分たちには何ができるのかを自発的に考え始めそれが、誰一人取り残さない地域共生社会の実現につながっています。なお、依頼したい事がある場合は、男性相手となるため、言葉の選び方には注意しています。そもそもこの取り組みのきっかけが、まさしく知り合いの生協の組合員さんから退職後の夫についての相談からでした。生協の組合員の配偶者の方が一日楽しく過ごせる居場所づくりが家庭だけでなく社会にも役立つのでぜひ考えてみてください。 と、大変面白くまた、地域社会のありかたに希望のもてるお話をしていただきました。

参加者からは、「全ての人に居場所をという話に感銘をうけた」「まさしく自分の父親や夫を思い浮かべながら話を聞いた」「生協の組合員の配偶者へのアプローチの参考になった」等の意見がありました。

以上